



土の沙漠

4月12日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

4月12日のおはなし「土の沙漠」

オルガレナの谷からキュペロスの丘まで予定外の時間がかかってしまった。予定では、日中の猛烈な暑さを避けて、やや気温の下がり始める夕方に出発し、夜どおし移動するはずだった。それが出発して間もなく、午後4時過ぎから暴風が吹き荒れはじめ、砂塵と言えばいいのか土埃と言えばいいのか、巻き上げられた土煙のせいで道はおろか風景の一切が見えなくなり足止めを余儀なくされたのだ。

沙漠には大きく分けて3つのタイプがある。小さな砂利だらけの礫漠、砂が風紋を描くような砂丘地帯の砂漠、そしてここのような細かい土が埃のように舞う土漠。グリップが安定するので車で走るには便利だが、その分、嵐になればまるで濃い霧のように視界が失われ、同時に目も耳も鼻も細かい土の粒子を吸い込んでしまう厄介な土地だ。4台の車に分乗していたのだが、それぞれお互いの位置もわからないまま思い思いの位置に停車し、嵐が過ぎるのを待った。待つしかなかった。

ひと晩中、車を転倒させそうに荒れ狂った嵐は、明け方になってやんだ。吹き始めと同様、終わる時も唐突で、つい先ほどまで身に危険を感じるような猛烈な突風の音で会話もできなかったのに、一瞬にしてあたりが静まり返った。やがて視界を遮っていた土煙がおさまると、嘘のように穏やかな表情を見せる。たったいままで吹き荒れていた嵐など最初からなかったかのようだ。それもそのはずだ。あたりはただ岩と砂と土しか見当たらない沙漠地帯だ。嵐によって破壊されるものもなく、汚されるものさえない。つまり嵐の痕跡が一切見当たらないのだ。化かされたような気分で車を出す。しかし、間もなく埃まみれになった仲間の車を見て、やっぱりあの嵐は本当にあったのだと再確認する。

「間に合えばいいが」

“饒舌”のハサンの言葉を聞きとがめて、何が間に合えばいいのかと問うと、本隊が「土漠の民」に襲撃される前に間に合えばいいのだがと言う。本隊だって丸腰なわけじゃない、むしろおれたちなんかより正式な武装をしている。そうおれが指摘してもハサンは黙って首を振るだけだ。何が違うんだとおれが声を荒くするとハサンはひとことつぶやいた。

「大佐、そんな襲撃はしない」

結局キュペロスの丘に着いたのは予定より6時間遅れだった。本隊はいなかった。我々を待ちきれずに先に進んだのかと思ったが、間もなくそうではないことが判明した。丘の麓の岩場に十字架が立てられ、護衛隊の隊長以下指揮官5人が殺され磔にされていた。耳と鼻を削がれ、見たところ舌も切られているようだった。彼らはクリスチャンじゃないのに。おれが怒っている様子を見て“饒舌”のハサンはひとことで説明した。

「クリスチャンの味方をした」

あの完全装備の本隊を壊滅させ、おそらく捕虜として引き立てて行った土漠の民に我々がどう対抗すればいいのか。4台の車で円陣をつくり、その中に急造のログジを建て、母艦と交信することにした。母艦ではどこまで把握しているのだろうか？

* * *

我々の上空から監視していたはずの母艦は、この半日ほど安定したポジションを確保できずに衛星軌道を周回していたことが分かった。だから本隊が失われた時の様子は誰にもわからない。ただ、ある種の言い伝えとして沙漠の民に関する情報もたらされた。曰く、礫漠の民は武力で戦う、砂漠の民は執拗さで戦う、土漠の民は内側に入り戦うと。本隊の中に手引きをするものがいたということだろうか。

「いずれにしても」とケイがまとめた。「我々ナレーターにできることは武力衝突ではない。ただ話し合うことだけだ。そうだろう、ハサン」

“饒舌”のハサンが頷き、その饒舌な沈黙で我々もすべきことを悟った。

「本隊にはジョウブがいる」おれは指摘した。「ジョウブは我々の誰よりも優れたナレーターだ」

「大佐のところには3年前からシェラザードがいる。シェラザードは芸術品のナレーターだ」ケイはおれの目を見ながら言った。「さあ、おれたちにできることは何だ？」

「話し合うことだけだ」

おれたちは4台の車に乗り、大佐の元へ向かった。

(「土漠」 ordered by ハンサム-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

土の沙漠

<http://p.booklog.jp/book/48025>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/48025>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/48025>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.